

フレールベル 著

『リナは如何にして読み書きを學ぶか』(五)

—— 楽しく忙しく働く子供達のための美しい物語 ——

莊 司 雅 子 譯

リナの短い訪問は子供達にとつて有益だつたばかりでなく否な！ 善きものや善きことを澤山幼稚園にももちこんだのである。即ち子供達を形の直観や形の關係に關するすべてのことに注意を拂うようにさせた。何故なら部分的な文字の並べ方の知識は其等の注意にかかつているからである。併し書き方の學習は特に正しい完全な話し方の注意にかかつている。最も小さい子供でも特に要求されたすべての事柄をなす場合たとえまだかすかであるとはいへ、若しこの要求が満足されたならばこの意志の要求の満足から何か彼のためになるものが現われて来るだろうという豫感を有つに違ひないものである。この豫感は決して子供に隠れている利己心ではなくて、寧ろ自己保存の衝動や欲望の自然的な要求であり、全環境と適當な調和の中に自己を見出そうと欲するものである。

幼稚園から歸つてから昨日の午後のようにリナの最初の仕事は、午前中に彼女の大事な本の中に既に彼女が知つてゐる大文字と小文字とを比較してその一致點を見附けることだつた(實際リナは非常な喜びの中に二三成功したのである。)このようにして今朝も毎日リナがやることになつてゐるお掃除や整理・整頓などの一寸した義務を全部済ました後、そして簡単な朝食も楽しく済ましたので、リナは直ちに母の思慮深い指導に依つて注意深い方法で、リナに自らを知らせ自らを導くことを教えてくれる沈黙せる教師を探した。

先づ第一にリナは大文字を再び相互に比較して見た。そして間もなくこんなことを見附けた。つまり或るものは主線が三本あるが、他のものは二本だけであり、更には曲つてはいらなかつた一本しかないのがある。またどの小鉤も弧も彎曲

せるものも主なものであつたりそうでなかつたりすることを
も見附けた。リナはやがて間もなくこれを小文字の中にも見
附けた。その小文字の中にも全く同じように主線を三本有つ
ているものや、二本有つているものや、或いはたつた一本し
か有つていないものがある。(そして小鉤や小圓や曲線もあ
つたりなかつたりしている。)このようにしてリナは最早や非
常に澤山の小文字の發見に成功し、そして彼女が知つてた大
文字との類似點も、最早や疑いない事實となつた。小文字の
中の二三のものに就いては勿論繰返し繰返し度々比較したに
も拘わらず尙もその區別を正しく知ることが出来なかつた。

此等すべてに關しては、リナはもつと母のはつきりした眼差
しと導きの言葉とを希わねばならなかつた。それで嬉しい期
待を以てリナは晝の來るのを待つた。その時には母や叔父に
彼女の見附けたものに就いて説明しなければならぬのだつ
た。丁度その時一寸した用事で部屋にはつて來た母にリナは
喜びに滿ちて叫んだ。「私はもう十二も小文字を知つてま
すよ」と。

「そう、それは嬉しいこと、ではお食事の時にそれを見せて
頂戴ね。そしたら二人でリナが見附けたものを試して見まし
ようね、さあもつと外のお仕事が出来るとしよう。そしてお
晝のために必要なものを用意しなさいね。」

リナが待ちに待つてた晝がとうとうやつて來た。ところが
同じように待ち焦れてた叔父が、今日は何時もと違つてな
かなか歸つて來なかつた。そのためにリナは自分の新しい進歩

とその喜びとを報告することが出来ないのを我慢しなければ
ならなかつた。併しとうとう叔父が歸つて來た。仕事のため
にこんなに歸りが遅かつたのだつた。叔父が母にそのことを
報告してゐたために、リナは叔父に彼女の愛する文字に注意
して貰うことが出来なかつた。ところがとうとう望んでいた
自由な機會が來たので、長く抑えていた深いため息と共に、
リナは彼女の勤勉の證據をいきなり持ち出し、叔父に向つて
「ごらんさい、叔父さん、私はもうすぐ殆んど全部の小文
字が解かるようになりますわ。そうすればすぐお父さんのき
れいなご本もひとりで讀むことが出来ましてよ。でもお母さ
ん見て頂戴、正しいかどうか」そして彼女は次のものを示し
た。父の手紙の中の文字と本の中の文字との注意深い比較に
依つて彼女の見附けた同意義の文字は次のようなものであ
る。M R m、N R n、U U u、W R w、V R v、O O o、P
R p、H h、R r、S s、K k、R r、Z z、
ただ R a、G e、G g、Q q、E i、C c。此等の文字は彼
女にとつて一寸曖昧だつた。ところが更に小文字の f f f f f
の f f f f f と其の他二三の文字など、彼女の全く知らない文
字を舉げた。「ねえ——叔父さん此等の符號は何を意味して
ますの？そしてどう發音すれば聽えるのか教えて下さい
ね。」リナは懇願するように叔父に向つて言つた。

「おお喜んで教えてあげますとも。殊に私は午後の仕事を今
朝やつてしまつたから、今いくらか時間がありますから、併
し私はこんなによくやつて來られたお母さんの教育の職務を

侵入したくないですね。」

「とにかく時間があるだけ今日はずつと教えてやつて下さいませ。私にとつてこんなに嬉しいことはありませんわ。今日はまだ澤山仕事がありますから。ではまた後ほど。」「あなたのお仕事とこの仕事と、どちらが上手に出来るか試してごらん下さいませ」と母は冗談を言い添えた。そして親しみに満ちたお辭儀をしながら「どうぞ宜しく」と言つて部屋を出て行つた。

「では石筆と石筆とを持つておいで、そして私達に出来ることを一つやつて見ましよう。」

いくらか描くことを知つた叔父は、先づ第一に例の曖昧な文字を各々その三種類の形に並べて明瞭に描いた。それから更に此等を二つづつ描いた。それに依つて一方のものに多過ぎるものは、他方では少な過ぎるが併し三つのどれにも本來的で、而もどれにも残つてゐるものが主要なものだといふことを、リナはたやすく直覺で知り、このようにして非常な喜びの中に曖昧な點は消えて、全く正確にこれを捕えるようになった。

「供し見たところ何處にも屬していないような他の文字はどうすればいいのですか。」

「ごらん、リナ」と優しい叔父が言つた。「もつと詳しく見てごらん。其等は殆んど組合はせた文字で、而もその一字々々はもう今までリナが知つてゐるものばかりです。リナのまだ知らない二三のものは「これとこれとせう。」そして同時に「

と」を示した。この二つの文字を今まで知つてたものの中から見附けることが出来なかつたのは、全く無理もないことです。實際それは非常に變つてゐるからです。SとCとの美しく曲つてゐる二つの文字は「」においては全く眞直ぐに延びてゐる。だからリナは殆んど見附けることが出来ないのです。勿論後の方は前の方から全く單純に現われて來たに過ぎないのだけれど。」

「私はそれをこのようにして考える方がよいと思ひますわ。丁度うねうねと曲つてゐる針金が、その大部分が眞直ぐに延びたのと同じようなものぢつて。」

「全くその通り。これでリナは前に知らなかつたし、またどうしていいのか解からなかつた大部分の文字を説明したり發音したりすることが出来るようになったでしょう。では先づ「」を見てごらん。」

「おお！ すぐ解かりますわ。それは二重のSですわ。」

「ではこれは？」と叔父は「」の文字を示して尋ねた。

「それもほんとにやさしいわ。それは「」と「」とが一緒になつたものです。」

「さうです。そして一つの音に發音するのです。ではリナはリナの文字でこの二三の二重になつた文字を書くことを知つてますかね、それを書いてごらん。」

「知つてますとも、それは——STです。」

「この文字（「」を示しながら）がリナには理解出来なかつたのも無理はないのです。それも二重になつてゐる（二二頁へ）

果と行動の表はれが、この劇あそびを指導している間にはつきりとつかむ機会を與えられるので御座います。人前ではなかなか意志の發表の出来ない内氣な幼児が、劇あそびをした後では自由遊びの折に性格の弱い者同志で積極的にグループを造り、得意になつて演じていたり、又積極的に活動する幼児達は實にのび／＼と自己の意志を友達同志へ傳へ合つて、グループを造り實に上手に發展させてくれます。始めは教師の口うつしでおぼえた言葉も、テーマをはつきりつかんだ後は自分自分で言葉をかえてお友達をうまくリードしているほ／＼笑ましい情景も見られ、實際に此の劇あそびを與えて効果を得て居る者でなければ味はふことの出来ない喜び、又他の方々には想像も出来ない程の期待効果を得られるもので御座います。

よく小學校の先生方と話し合ひの折に問題になります事は『幼稚園の方が程度の高い事をして』と云はれる事が度々御座いますが、この點は幼稚園の生活全體についても云える事で御座います。幼児の發達段階を充分みつめて心理的な發達にうま／＼合致した材料が指導よろしきを得れば、幼児の興味に拍車をかけて面白いように進展して行くものでございます。『幼稚園だから』『幼児は何も出来ない』『させるのは無理だ』とあるわ／＼をはめて考えることは禁物だと思いません。殊に二年保育、三年保育、の年長組ともなれば、何事も保育の効果は表はれ、殊に就學前半々年度の幼児の中にはすべての生活に於てすばらしい發達を示してくれることがあ

ざいます。この事は永年保育の現場に居る者のみが聲を大にして申上げる事の出来る嬉しい體驗です。又私共保育者のみに與えられる喜びでございます。

附

昨夏の發表に間に合せる爲大急ぎで東京都公立幼稚園で現在迄に行つた劇あそびを『劇あそび脚本集』としてフレール館から發行しましたが、近く少々訂正増補して再版することになつて居ります。

文字です。つまり「と」です。そしてそれは「の」音を強く鋭く發したければならないことを示しているのです。」

「はいそれも知つてます。お母さんが(SS)の符號に就いて教えて下さいましたわ。」

「よろしい！ リナがお母さんのお言葉にそんなに注意深いことは嬉しいことです。お母さんにも私の喜びを話しておきましょう。併しリナは次にここにある二重符號(〇)を示して(〇)をも説明したり發音したりすることが出来るように學ばなくてはなりませんね。さあ詳しく調べてもらん。一つ一つの符號をリナは知つてるのだから。」

「ああ！ ほんとによく知つてますわ。それはCとHとですでも(〇)を一つの音に發音することが出来ませんわ。」

「出来ない？ 出来ると思ひますね。だつてお母さんはこの二つの符號、即ち文字をどう書くと教えて下さいましたかそれを石盤に示して見せて下さい。」

(つゞく)